

農業大子校

vol.8

農大祭 実習等の成果を披露



十一月九日、好天に恵まれた小諸キャンパスでは恒例の農大祭が開かれました。松代から来た一年生とともに、例年になく多く来校されたお客様をお迎えしました。

模擬店コーナー、農産物販売コーナーはどこも人気で、商品によってはあつという間に品切れとなりました。

「農大アタッククイズ」で農業の基礎知識をためてもらったり、実習で育てた餅米でついたお餅を味わってもらったりと、お客様には実りの秋の一日を楽しんでいただきました。



農業に期待感



農業大学校総合農学科 後援会長
土屋 貴生

現在の農業に対する環境は、諸材料費の高騰、農産物の価格低迷等、さまざまな問題があり、農家にとっては大変な局面となっております。輸入農産物に対する消費者からの不安の声が広がる中、安心で安全な品物を求めるのは当然で、生産者もその声に応えていかなければなりません。

我が国では一部を除き、食料自給率の向上に目が向けられてきております。各種の施策が講じられることにより、日本の農業が活性化され、希望の光が見えてくると思われます。

このチャンスに、これからの若い世代の皆さんが農業を真剣に考え、新しい農業に取り組んで欲しいと思います。今まで、学んできたことを大いに活かし、より一層の活躍を期待しております。

新潟での四県スポーツ大会 バレーボールで優勝



十月二十三日、新潟県新潟市で開かれた恒例の「四県親善スポーツ大会」では、熱戦の末、バレーボールでは優勝、バスケットボールも決勝まで進出と大活躍しました。新潟市内の宿に前泊し英気を養ったのですが、夜には毒物劇物の資格試験に備えた補講まで受け、文武両道を目指すタイトなスケジュールとなりました。他県の農大生との交流も含め、学生には充実した思い出となったようです。

人気の農大市・松代

十一月十六日は、松代キャンパスで農大市が開かれました。あいにくの空模様で途中からは雨になりましたが、例年とほぼ同じ千人ものお客様が来校され、野菜、作物、果樹と学生たち手作りの農産物が完売しました。中でも、人気アイテムは、大根等、農大産野菜100%の材料を目指して用意した豚汁です。例年以上の六百人以上以上を用意したのですが、またたくまに品切れとなりました。手作りの餅を含めて地場農産物の好評ぶりは、何よりも実際に売った学生に感じられたのではないのでしょうか。



農産物の実践的な販路拡大を学ぶ



翌十七日は早朝七時から大田市場を見学し、青果物の流通風景や花きの機械競り風景などを見学し、市場の広さ、品目の多さに圧倒されました。午後は東京都生協連会館で「生協における産直の現状と課題」と題し、日本生協連の内山和夫氏から、生協の取り組みや産直活動やGAPの取り組みについて分かりやすい講義を受けました。短い日程でしたが、興味深い見学・実習を行い、実り多い授業となりました。

十二月十六〜十七日の二日間、二年生は「農産物マーケティング論実習」で実践的なマーケティングを学ぶ研修を行いました。埼玉種畜牧場サイボクハムでは農畜産物の直売を見学し、笹崎龍雄会長の講演を聞きました。東京都では、老舗の百貨店である日本橋「三越」と島根県の「アンテナショップ」にほんばし島根館」を見学しました。

「物売るだけでなく文化を売る」。なぜ、一個が千円もするリングが売れるのか、マーケティングの真髄と高級百貨店の雰囲気を感じる事ができました。



天候にも恵まれました!!

スキー教室

2月12～13日、菅平高原ハインビークスキー場において二年生のスキー教室を開催しました。

プロジェクト学習のまとめも終え、どの学生も肩の荷が降りたのか、リラックスした様子で、インストラクター級の実力者も、ほとんど初めてという者もいましたが、天候にも恵まれた快晴のゲレンデで思い思いにスキー・スノーボードを思う存分楽しみました。

宿泊での授業は、学生たちには最後のよい思い出づくりになったのではないのでしょうか。



十二月十日、十一日に松代キャンパスにおいて二年生三十四名の「プロジェクト発表会」が開催されました。

長野県で育成されたブドウの新品種「ナガノハープル」の省力化栽培につながる工夫、普段見過ごされがちなたまごの特産品種「南水」の生長のプロセスの調査等、どの発表も見応えあるものでした。

プロジェクトは、自分で計画した農畜産物の生産の全過程を自分の責任で管理し、朝な夕なに個々の課題を調査・分析し、その結果をまとめあげなければなりません。「来年にはこんな発表ができるだろうか」。聞いていた一年生からも時間切れになるほど次々と多くの質問が出されました。一年生は座学が中心ですが、先輩の影響を受けてか発表会後には当事者意識も高まり、授業にも一層身が入るのです。

プロジェクト発表会

厳正な審査の結果、最優秀賞に将来の自らの経営に自然薯を新品目として取り入れる研究をおこなった野菜コースの柏木健司君が選ばれ、あわせて次席の果樹コース堀内彩加さん、村田由貴さんの三名が、二月二十一日～二十三日、横浜市で開催される「関東ブロックプロジェクト発表会」への代表に選出されました。



平成20年度 関東ブロック農業大学校等プロジェクト発表会

関東ブロックプロジェクト発表会

代表三名は、六十人あまりの聴衆を前に、やや緊張した面持ちで発表に臨みましたが、発表者二十八名中柏木君が最優秀賞を受賞、堀内さんは七位、村田さんは八位とそれぞれ上位入賞を果たしました。



最優秀賞を受賞した柏木健司君

全国農業大学校等プロジェクト発表会で活躍

平成二十一年二月二十五～二十六日、東京の国立オリンピック記念青少年センターにおいて全国農業大学校等プロジェクト発表会が開催され、柏木健司君が関東ブロック代表として参加しました。

全国各ブロックから選出された十五名の代表の発表はどれも素晴らしく、まさに甲乙つけがたいものでしたが、その激戦のなか、柏木君の発表は全国の第三席を射止めました。

長野県農業大学校の代表が全国大会で入賞したのは七年ぶりのことであり、年度を締めくくるにふさわしい快挙となりました。

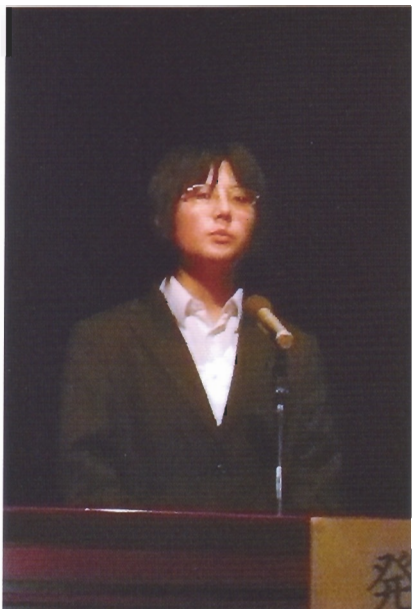
プロジェクトに取り組んで約一年、柏木君もさすがに少々疲れた様子でしたが、「全力を尽くした結果が評価されたいへんうれしい」と言っていました。来年度プロジェクトに取り組む学生諸君も、柏木君に続いてがんばって欲しいと思います。



若人のつどいで発表

二月六日長野市市民文化ホールで開催された「明日の長野県農業を担う若人のつどい」に、昨年に引き続き二年連続で岩田有加さん、そして、一年生では森田恵子さんが発表しました。

若人のつどいは、まだ就農してから十年以内の若者たちの発表がされます。このためか、将来就農を希望している学生からは「先輩の発表している姿に感銘を受けた」、それ以外の学生からも「自分も就農したい気持ちになった。就農してこの場で発表したい」との前向きな発言も飛び出しました。



平成20年度卒業生の進路状況

- 就農:7名 …………… 自営(3)、(有)信州ファーム荻原、(有)テールマウンテンファーム、ハヶ岳岳麓蕎麦園
(有)クリーンみず穂(富山県)
- 就職:20名 …………… JA・農業団体:佐久浅間、信州うえだ(3)、松本ハイランド(2)、北信州みゆき、みなみ信州
信州諏訪(2)、須高、ちくま
農業関連企業:(株)甲信クボタ、(株)大地(2)、(株)ハルディン、マメトラ農機(株)
宮本農機具店
その他企業:(株)ツルヤ、(株)マツヤ
- 進学:7名 …………… 専門技術科(4)、信州大学農学部(編入)、弘前大学農学生命科学部(編入)
京都栄養医療専門学校